

1面より

化の原因とされている二酸化炭素(以下CO₂)濃度は産業革命以前の倍の濃度にまで達しており、CO₂の排出低減、森林等による吸収と同時に、排出されたCO₂を分離回収して地下の岩石の隙間に貯留する事業(CO₂)が温暖化対策の手段として注目されているそうです。

千葉県京葉工業地帯は製鉄、発電産業等でCO₂を大気中に大量に排出している地帯ですが、近くの九十九里沖海底下にCO₂を封入貯蔵することを目指して、海底面下1600~1900mに達する2本の評価井を掘り、地質構造を調べるとのことです。

この地域の上総層群は、陸域では水溶性天然ガスやヨウ素を含むカン水の採取地として知られていますが、今回は、加圧し液化したCO₂を封入するので、漏れ出さない遮蔽層があること等、封入に適した地質学的特性を持つ地層かどうかを調べることです。

上総層群にある火山灰層は屏風ヶ浦大伏層群にある火山灰層といくつも対比されていますので、ボーリングコアから得られる同時代の地層の情報は、屏風ヶ浦の地層を理解するうえで参考になると考えられ、調査結果が待ち望まれます。



講演会風景(質疑応答)

千葉科学大学看護学部
銚子ジオパーク実習
報告 石嶋 博行

五月七日(木)に、新入生必修科目「地域フィールドワーク実習」(全23回・

1単位)の2回分2時間「銚子ジオパークと市民の会の活動内容」を主題に、座学とジオガイドを会員7名で担当し、学生は17人が参加しました。

この実習は、駅周辺の公共施設のまち歩きから始まり、外川地区、マリーナ海岸、漁業や農業と、現地で地域を学ぶ科目で、令和4年度から新たに設定されました。

座学では、①銚子の位置と地域性 ②銚子ジオパークの特徴 ③市民の会の活動内容(歩み・海岸清掃や学習支援とジオガイド・市民の会の課題)を、24枚のスライドを作成し、講義をしました。

屏風ヶ浦のジオサイト見学では、3班編成の学生を、ガイド6名で案内しました。案内の視点は、①屏風ヶ浦の優れた自然景観と地球科学的な価値(第四紀地層の海食崖) ②屏風ヶ浦のでき

千葉県生涯大学校東総学園
屏風ヶ浦ジオツアー
報告 安藤 清

6月16日午後、県生涯大学校東総学園の屏風ヶ浦ジオツアーがありました。

参加者は「ふるさとささえあいコース1年生」約30名、3班に分かれて、田中、内匠安藤がガイドしました。

現地見学が始まった当初は大伏崎周辺でしたが、後に遊歩道が整備されている屏風ヶ浦に移りました。

この授業は「ボランティア実習」という科目の一つで、目標は銚子ジオパークを理解すること、そしてジオパークを例にボランティア活動を考え、たずさわる機会を提供することです。事前に岩本専門員による講義とミュージアムの見学があり、このツアーの後、海岸清掃への参加が予定されています。

多くは銚子市内と近隣の方々でしたが、あらためて銚子の魅力を知って有意義だ

つたとの感想が寄せられました。

年齢も経歴も様々な方々にとって、ジオパーク活動が、それぞれに意義があることを感じました。

人生のベテランでもある生徒の皆さんと楽しい時間を過ごすことができたガイドでした。

ジオの森保全活動

銚子ジオパーク

推進協議会専門員

岩本 直哉

6月11日、君ヶ浜国有林で、遊歩道の草刈りや松林の落ち葉かきなどの保全活動を行いました。

この森は、林野庁関東森林管理局と銚子ジオパーク推進協議会が協定を結び、「銚子ジオパークの森」として、市民の会を中心に年数回、保全・活用している場所です。森の入口付近は草が生い

茂りやすいため、利用者が気軽に森を利用できるよう、今回も草刈りを行いました。



また、森の一角に設けられた松林の保全エリアでは、君ヶ浜周辺にかつて広がっていた白砂青松の景観の再生を目指し、草刈りや落ち葉かきを続けています。しかし、松くい虫により、この区域でも松枯れが進んでいます。そのため今回から、自然に芽生えた松の実生を刈らずに残す取組を始めました。小さな実生が、やがて松林を支える木へと育つことを願っています。

この森はジオガイドによる案内やミュージックビデオの撮影にも活用されています。今後も、皆さんが気持ちよく利用できる森を目指し、保全活動を続けていきます。(作業が終わって)